

令和6年12月10日
環境生活部水質保全課
043-223-3814

令和5年 千葉県における地盤沈下の概況について

県では、毎年、県内の地盤沈下の状況を把握するため、地盤変動量調査を実施しています。

この調査は、昭和35年から実施しており、このたび令和5年の地盤変動状況を取りまとめましたのでお知らせします。

地盤沈下は、調査開始当初から比べると沈静化の傾向を示していますが、依然として継続しています。令和5年は、前年と比較して地盤沈下が見られた地域が増加しました。

今後も沈下の状況を監視するとともに、その防止に取り組んでまいります。

1 調査概要

- (1) 調査方法：1級水準測量（基準日：令和6年1月1日）
- (2) 調査対象地域：
東葛、葛南、千葉・市原、君津、北総及び九十九里地域の47市町村
（地下水採取規制区域の29市町及び天然ガスかん水採取地域の15市町村を含む）
- (3) 調査に用いた水準点数：1,071点（令和4年調査：1,072点）
- (4) 調査面積：3,208.5km²（令和4年調査：3,208.5km²）

2 調査結果の概要

- (1) 地盤沈下が見られた面積：3,071.0km²（調査面積の95.7%）
 - ア 令和4年調査結果と比較して1,251.1km²増加した。
 - イ 2cm以上の沈下が見られた面積は299.9km²であり、令和4年調査結果と比較して284.7km²増加した。
 - ウ 5年間累計（令和元～令和5年）では10cm以上の沈下が見られた面積は29.6km²であり、前5年間（平成26～平成30年）と比較して25.0km²増加した。
- (2) 地盤沈下が見られた水準点：1,029点（令和4年調査：640点）
最も沈下したのは富里市十倉^{とくら}にある水準点で、沈下量は3.84cmであった。
- (3) 地盤沈下が見られなかった水準点：42点（令和4年調査：432点）
最も隆起したのは木更津市矢那^{やな}にある水準点で、隆起量は0.37cmであった。

3 地盤沈下の原因

地盤沈下の一般的な原因として、地下水や天然ガスかん水の採取等の人為的要因、若しくは地震動や時間経過による圧密等の自然的要因、又はこれらの複合要因が考えられている。

令和 5 年の調査結果については、令和 4 年と比較して、特段の人為的要因の変化は見られず、自然的要因についても現時点で明確に特定できるような事象は確認されていない。

※圧密：ゆれや上部からの荷重によって地層中の水や空気が移動して地層が収縮する現象。

4 地盤沈下の対策

地盤沈下のうち、人為的要因による地盤沈下は防止を図る必要があることから、引き続き、以下の施策を講ずることとする。

(1) モニタリング

地盤沈下の状況等を把握するため、観測井による地下水位等の測定及び地盤変動調査を継続する。

(2) 法・条例による地下水採取規制

地下水の採取による地盤沈下を防止するため、工業用水法、建築物用地下水の採取の規制に関する法律(ビル用水法)、千葉県環境保全条例により、千葉市を除く 28 市町の指定地域において、引き続き地下水採取規制を実施する。(千葉市については、県と同様の規制を実施)

(3) 「地盤沈下の防止に関する細目協定」による天然ガスかん水採取の削減等の取組

天然ガスかん水採取による地盤沈下を防止するため、かん水を採取する企業と県が締結している「地盤沈下の防止に関する細目協定」に基づき、かん水地上排水量の削減等の取組を進めている。

【県内のかん水採取地域(15 市町村)】

茂原市、東金市、山武市、いすみ市、大網白里市、九十九里町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長南町、大多喜町、千葉市、成田市

※地盤沈下の防止に関する細目協定：天然ガス採取企業 10 社と県が昭和 56 年に締結した「地盤沈下の防止に関する協定」に基づき、現在、天然ガスかん水を採取している 8 社と県が、かん水地上排水量の削減等の取組を盛り込み締結している協定。

※かん水地上排水量：地下から採取した天然ガスかん水の量から、天然ガスやヨードを分離した後のかん水を地下へ戻し入れた量を差し引いた水量で、地上に排出する水量。

5 ホームページ掲載情報

本調査結果の詳細等については、県ホームページを御覧ください。

ホーム>環境・まちづくり>環境>水質・地質>地盤沈下>地盤沈下の状況>令和 5 年千葉県における地盤沈下の概況について

<https://www.pref.chiba.lg.jp/suiho/press/2024/jibanchinka/index.html>

令和5年 千葉県における地盤沈下の概況について（参考資料）

1 地盤変動調査について

令和5年の地盤変動量は、令和5年1月1日と令和6年1月1日における水準点の標高差から、各水準点（1,071点）の変動量を求め、これを基に変動量の等値線図を作成し、沈下面積を算定している。

※水準点は、正確な高さを求める測量のため設置された、その周辺の高さの基準となる測量標。

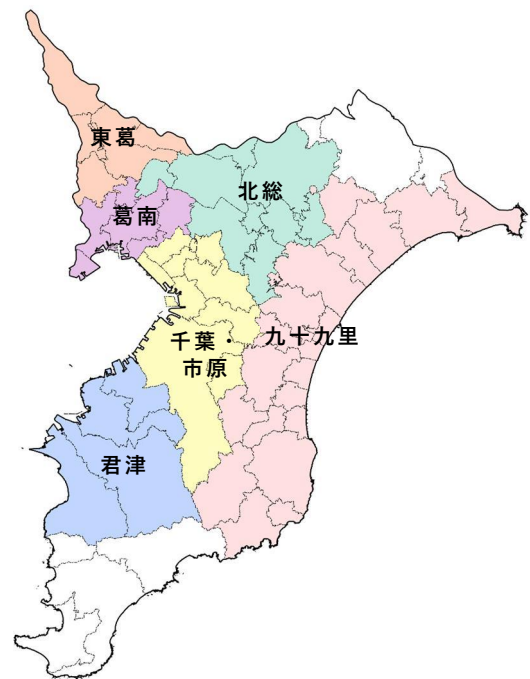
2 調査範囲

法・条例に基づく地下水採取規制区域及び天然ガスかん水採取地域を中心に、以下の47市町村で実施。

（調査対象面積は、県全体（5,156.5km²）の約6割にあたる3,208.5km²）

調査地域と対象市町村

調査地域	対象市町村（全47市町村）
東葛 (5)	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市
葛南 (6)	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、鎌ヶ谷市、浦安市
千葉・市原 (4)	千葉市、市原市、四街道市、長柄町
君津 (4)	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市
北総 (9)	成田市、佐倉市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町、芝山町
九十九里 (19)	銚子市、茂原市、東金市、旭市、勝浦市、匝瑳市、山武市、いすみ市、大網白里市、多古町、九十九里町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長南町、大多喜町、御宿町



<法・条例に基づく規制>

○工業用水法

工業の健全な発達と地盤沈下の防止に資することを目的に、指定地域内で製造業、電気供給業など工業の用に供する地下水について、揚水機の吐出口断面積6cm²を超える井戸での採取を規制。

○建築物用地下水の採取の規制に関する法律（ビル用水法）

地盤沈下を防止するため、指定地域内の建築物用地下水（冷房設備、水洗便所などの用に供する地下水）について、揚水機の吐出口断面積6cm²を超える井戸での採取を規制。

○千葉県環境保全条例

地盤沈下の防止及び地下水の保全を図るため、工業用水法、ビル用水法及び温泉法の規制を受ける場合を除き、指定地域内で工業、農業その他の事業の用に供する地下水について、揚水機の吐出口断面積6cm²を超える井戸での採取を規制。

※参考までに地下水採取規制区域等の図を図5（11ページ）に示す。

3 地盤変動状況について

(1) 地盤沈下が見られた面積

ア 令和5年調査結果（1年間沈下量）（図1参照）

調査面積(3,208.5km²)の95.7%にあたる3,071.0km²で地盤沈下が見られ、令和4年調査結果(1,819.9km²)と比較して、面積は1,251.1km²増加した。
 なお、2cm以上の沈下が見られた面積は299.9km²であり、令和4年調査結果に比べ284.7km²増加しており、4cm以上の沈下は見られなかった。

(内訳)	地盤沈下面積 (km ²)	比率(対調査面積)	対前年比増減 (km ²)
2cm未満	2,771.1	86.4%	+966.4
2cm以上	299.9	9.3%	+284.7
県全体	3,071.0	95.7%	+1,251.1

<各地域の状況>

東葛、葛南及び君津地域では2cm以上の地盤沈下が見られなかったが、千葉・市原、北総及び九十九里地域で2cm以上の沈下が見られた。
 なお、令和4年調査では、北総地域において2cm以上の沈下が見られた。

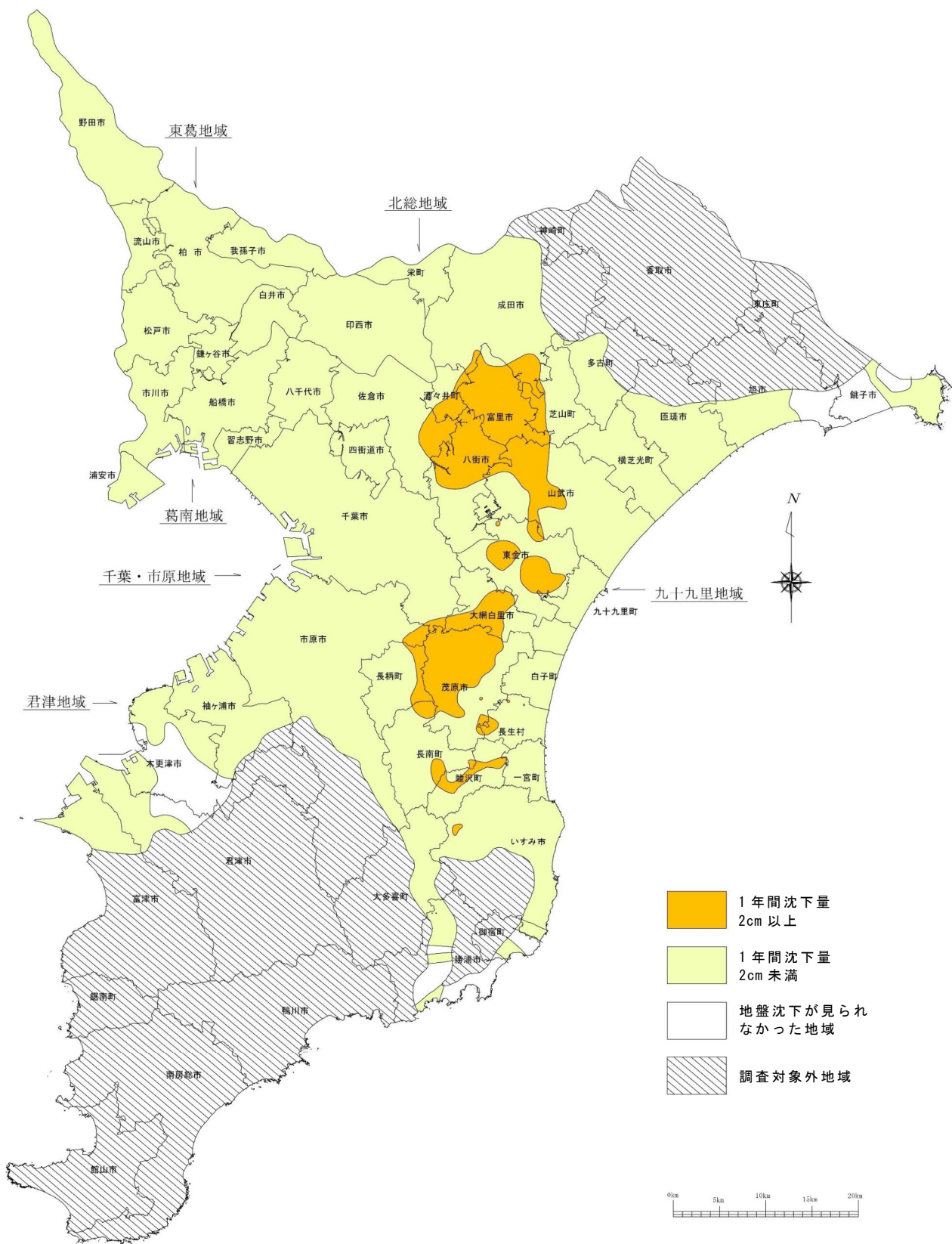
※参考までに1cm間隔での地盤変動図を図4(10ページ)に示す。

令和5年 地域別・沈下量別地盤沈下面積

地域	調査面積 (km ²)	地盤沈下が見られた 面積(km ²)	沈下量(cm)別地盤沈下面積(km ²)			地盤沈下が見られなかった 面積(km ²)
			2cm未満	2cm以上 4cm未満	4cm以上	
東葛	357.6 (357.6)	357.6 (45.7)	357.6 (45.7)	0 (0)	0 (0)	0 (311.9)
葛南	253.9 (253.9)	253.6 (109.6)	253.6 (109.6)	0 (0)	0 (0)	0.3 (144.3)
千葉・市原	617.8 (617.8)	617.8 (305.5)	603.2 (305.5)	14.6 (0)	0 (0)	0 (312.3)
君津	264.3 (264.3)	202.0 (57.2)	202.0 (57.2)	0 (0)	0 (0)	62.3 (207.1)
北総	643.8 (643.8)	643.8 (402.6)	511.5 (387.4)	132.3 (15.2)	0 (0)	0 (241.2)
九十九里	1,071.1 (1,071.1)	996.2 (899.3)	843.2 (899.3)	153.0 (0)	0 (0)	74.9 (171.8)
合計	3,208.5 (3,208.5)	3,071.0 (1,819.9)	2,771.1 (1,804.7)	299.9 (15.2)	0 (0)	137.5 (1,388.6)

注 括弧内は令和4年調査結果

図1 令和5年 地盤沈下状況（1年間沈下量）
（令和5年1月1日～令和6年1月1日）



イ 5年間累計沈下量（図2参照）

令和元～令和5年の5年間累計では、調査面積（3,207.9km²）の72.1%にあたる2,312.6km²で地盤沈下が見られた。

また、前5年間（平成26～平成30年）で沈下が見られた面積（2,657.3km²）と比較すると、344.7km²減少しており、4cm以上の沈下が見られた面積は96.9km²減少し、うち10cm以上の沈下が見られた面積は25.0km²増加した。

（内訳）	地盤沈下面積 （km ² ）	比率（対調査面積）	対5年比増減 （km ² ）
2cm未満	1,434.1	44.7%	-90.6
2cm以上4cm未満	424.1	13.2%	-157.2
4cm以上6cm未満	284.6	8.9%	-85.7
6cm以上8cm未満	96.4	3.0%	-38.9
8cm以上10cm未満	43.8	1.4%	+2.7
10cm以上	29.6	0.9%	+25.0
県全体	2,312.6	72.1%	-344.7

} -96.9 km²

<各地域の状況>

東葛、葛南及び君津地域では、4cm以上の地盤沈下は見られなかった。

一方、千葉・市原、北総及び九十九里地域では、4cm以上の沈下が見られ、千葉・市原地域では地盤沈下面積の4.8%、北総地域では24.7%、九十九里地域では30.7%を占めていた。

	地盤沈下面積 （km ² ）	4cm未満の沈下面積 （km ² ）	4cm以上の沈下面積 （km ² ）
東葛、葛南、君津地域	313.0	313.0 (100%)	0 (0%)
千葉・市原地域	485.0	461.6 (95.2%)	23.4 (4.8%)
北総地域	570.7	429.7 (75.3%)	141.0 (24.7%)
九十九里地域	943.9	653.9 (69.3%)	290.0 (30.7%)

注 括弧内は各地域の地盤沈下面積に対する比率

5年間累計の地域別・沈下量別地盤沈下面積（令和元～令和5年）

地域	調査面積 （km ² ）	地盤沈下が見られた面積 （km ² ）	5年間累計の沈下量（cm）別地盤沈下面積（km ² ）						地盤沈下が見られなかった面積 （km ² ）
			2cm未満	2cm以上 4cm未満	4cm以上 6cm未満	6cm以上 8cm未満	8cm以上 10cm未満	10cm以上	
東葛	358.2 (358.2)	149.4 (115.5)	149.4 (108.9)	0 (6.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	208.8 (242.7)
葛南	253.9 (253.9)	46.4 (172.4)	44.3 (164.7)	2.1 (5.5)	0 (2.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	207.5 (81.5)
千葉・市原	617.8 (617.8)	485.0 (592.8)	395.5 (497.7)	66.1 (84.6)	18.4 (10.5)	4.5 (0)	0.5 (0)	0 (0)	132.8 (25.0)
君津	264.3 (264.3)	117.2 (133.2)	117.2 (133.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	147.1 (131.1)
北総	643.8 (643.8)	570.7 (629.1)	346.3 (346.8)	83.4 (126.2)	52.8 (76.6)	31.1 (39.3)	27.5 (35.6)	29.6 (4.6)	73.1 (14.7)
九十九里	1,069.9 (1,069.9)	943.9 (1,014.3)	381.4 (273.4)	272.5 (358.4)	213.4 (281.0)	60.8 (96.0)	15.8 (5.5)	0 (0)	126.0 (55.6)
合計	3,207.9 (3,207.9)	2,312.6 (2,657.3)	1,434.1 (1,524.7)	424.1 (581.3)	284.6 (370.3)	96.4 (135.3)	43.8 (41.1)	29.6 (4.6)	895.3 (550.6)

注 括弧内は平成26～平成30年の5年間累計

(2) 地盤沈下が見られた水準点

ア 水準点数：1,029点(令和4年調査：640点)

イ 最も沈下した水準点：富里市^{とくら}十倉 3.84cm

(令和4年調査：富里市^{たかまつ}高松 2.46cm)

地盤沈下量の大きな水準点(上位10点)

(参考:直近5年間の年別最大沈下水準点)

水準点		地盤変動量 (cm)	
所在地	名称	R05年	R04年
富里市 ^{とくら} 十倉	TM-17	-3.84	-2.15
富里市 ^{たかまつ} 高松	TM-18	-3.77	-2.46
富里市 ^{ななえ} 七栄	TM-4	-3.61	-1.90
富里市 ^{ごりょう} 御料	TM-7	-3.57	-2.04
富里市 ^{とくら} 十倉	TM-6	-3.55	-2.28
富里市 ^{とくら} 十倉	TM-9	-3.43	-1.90
八街市 ^{えのきど} 榎戸	YM-13	-3.37	-1.94
富里市 ^{ななえ} 七栄	TM-16	-3.33	-1.61
八街市 ^{やちまた} 八街ろ	YM-14	-3.28	-2.09
佐倉市 ^{かみかつた} 上勝田	SK-3	-3.23	-1.85

年	水準点		地盤変動量 (cm)
	所在地	名称	
R05	富里市 ^{とくら} 十倉	TM-17	-3.84
R04	富里市 ^{たかまつ} 高松	TM-18	-2.46
R03	長生村 ^{なないど} 七井土	3926	-1.83
R02	富里市 ^{たかまつ} 高松	TM-18	-2.47
R01	八街市 ^{やちまた} 八街ろ	YM-14	-2.53

(3) 地盤沈下が見られなかった水準点(地盤隆起した水準点を含む)

ア 水準点数：42点(令和4年調査：432点)

イ 最も隆起した水準点：木更津市^{やな}矢那 0.37cm

(令和4年調査：横芝光町^{おだれ}尾垂 1.37cm)

地盤隆起量の大きな水準点(上位11点)

水準点		地盤変動量(cm)	
所在地	名称	R05年	R04年
木更津市 ^{やな} 矢那	K-37	+0.37	+0.00
銚子市 ^{やぎちよう} 八木町	CH0-8	+0.33	-0.06
勝浦市 ^{なかじま} 中島	35-175-009	+0.28	-0.17
銚子市 ^{みやけまち} 三宅町二丁目	3961	+0.23	-0.26
勝浦市 ^{かみうえの} 上植野	35-175-007	+0.22	-0.18
木更津市 ^{きさらづ} 木更津二丁目	K-17	+0.19	-0.04
勝浦市 ^{しんかん} 新官	3909	+0.18	-0.33
銚子市 ^{みさきちよう} 三崎町三丁目	CH0-7	+0.17	+0.27
君津市 ^{みなみこやす} 南子安	3855	+0.16	+0.06
勝浦市 ^{うえの} 植野	35-175-008	+0.16	-0.16
木更津市 ^{あさひ} 朝日三丁目	3851	+0.16	-0.03

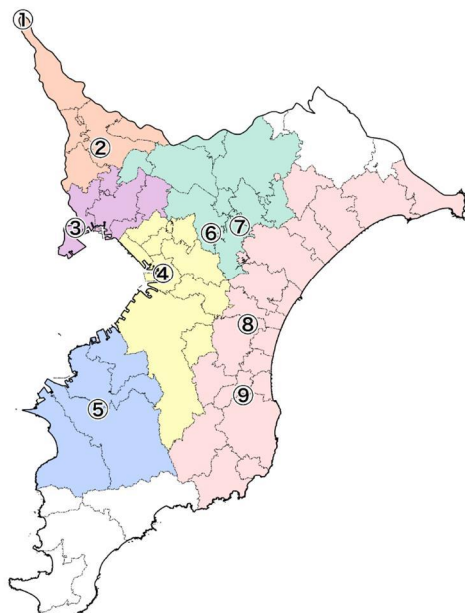
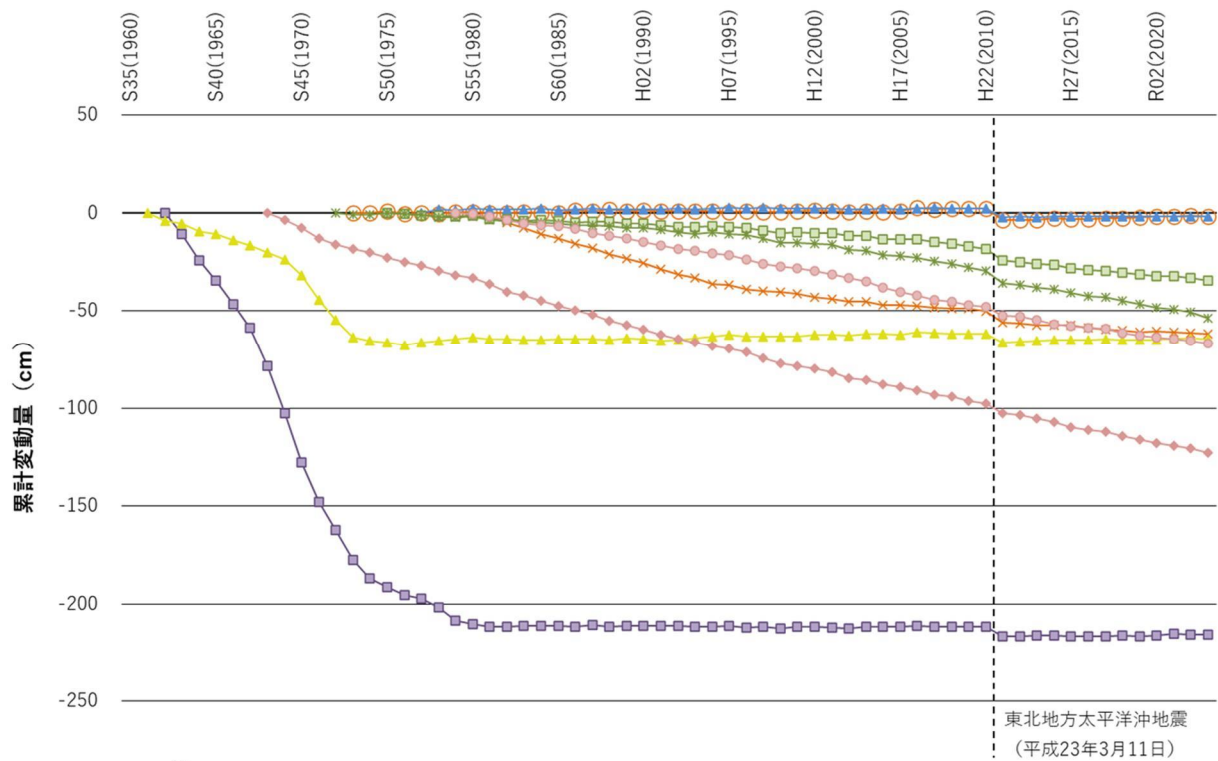
(4) 各地域の地盤沈下の推移(図3参照)

昭和40年代に地盤沈下が激しかった葛南、千葉・市原地域では、地下水の採取は工業用水法、千葉県環境保全条例等による規制等により大幅に削減され、また、天然ガスかん水の採取は「地盤沈下の防止に関する協定」や天然ガス鉦区の買い上げ等により削減されたことによって、地盤沈下は沈静化の傾向にある。

一方、北総地域では、地下水の採取状況に大きな変化がなく、地盤沈下が継続している状況が見られる。

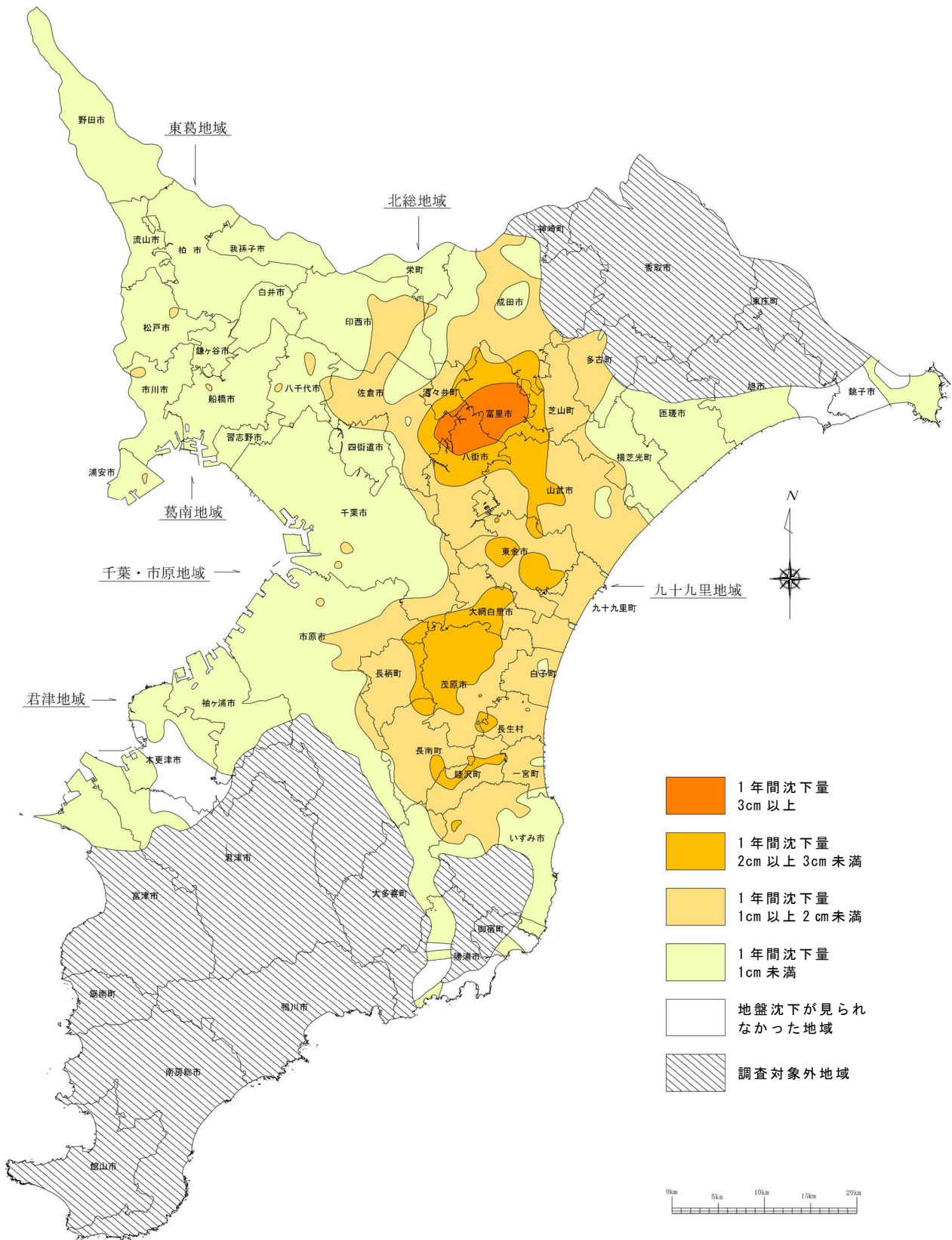
また、天然ガス採取が行われている九十九里地域では「地盤沈下の防止に関する細目協定」に基づく天然ガスかん水採取の削減等の取組が行われているが、地盤沈下が継続している状況にある。

図3 各地域の地盤沈下の推移



- ① 東葛地域 (野田市〔旧関宿町〕)
- ② 東葛地域 (柏市)
- ③ 葛南地域 (市川市)
- ④ 千葉・市原地域 (千葉市中央区)
- ⑤ 君津地域 (君津市)
- ⑥ 北総地域 (佐倉市)
- ⑦ 北総地域 (八街市)
- ⑧ 九十九里地域 (茂原市)
- ⑨ 九十九里地域 (いすみ市)

【参考】図4 令和5年 地盤沈下状況（1年間1cm間隔沈下量）
（令和5年1月1日～令和6年1月1日）



【参考】 図5 地下水採取規制区域及び天然ガスかん水採取地域

